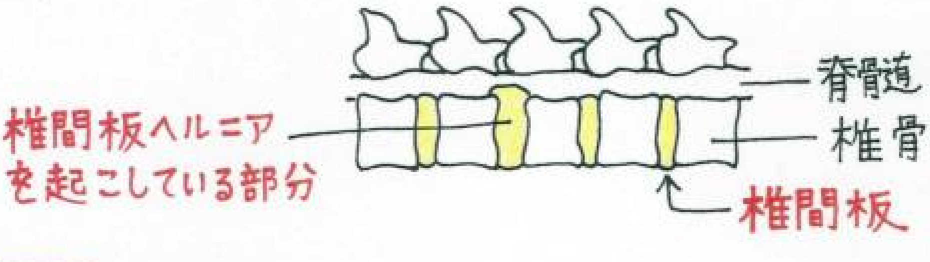
よしながだより

vol.8

ダックス コーギー に多いです！ 椎間板(ついかんばん)ヘルニア

『椎間板』とは、背骨を構成する椎骨(ついこつ)と椎骨の間にある軟骨で、背骨にかかる力を吸収するクッションの役目をしています。『椎間板ヘルニア』とは、この「椎間板」が外に突き出た状態をいいます。
背骨には脳とつながる重要な中枢神経『脊髄(せきずい)』が走っていて、体のさまざまな部分が感知した感覚や刺激を脳に伝えたり、脳から筋肉を動かす指令を体中に伝えています。しかし、「椎間板」が外に突き出ると「脊髄」を圧迫してしまうので、痛みや神経マヒが起きます。



原因

さまざまな姿勢や動きを支える背骨には、日頃から多くの負担がかかっています。特に、クッションとなる椎間板への負担はとても大きく、そこへ激しい運動や肥満、骨の老化などが加わるとさらに負担が大きくなり、ヘルニアを起こしてしまうのです。

また、椎間板ヘルニアは胴が長く足の短い犬種（ダックス・コーギーなど）で非常に多くみられます。
これらの犬種は骨の構造上、背骨への負担が大きいことと、先天的に軟骨の形成異常になりやすいため、若年齢で発症することもあります。
その他、ビーグル・シーズー・ペキニーズなども軟骨の形成異常になりやすいため、椎間板ヘルニアを起こしやすい犬種です。

症状

- 触ると怒る・痛がる
- ソファや階段など、段差を昇らなくなる
- 歩き方がおかしい
  （足がふらつく、のろのろ歩きになる）

痛みや神経マヒが軽い場合は内科的治療で症状が改善されることも多いのですが、治療が遅れたり、ヘルニアの程度によっては脊髄が壊死して、生涯、立てなくなったり、自力での排泄が困難になることもあります。

散歩中、歩き方を注意して見るようにしましょう。

「いつもと様子が違うな」と思ったら、早めに受診を!!

予防

背骨に負担がかからないよう、以下のことに気をつけましょう。

- 滑りやすいフローリングの床はカーペットなどを敷く
- 太らないように食事管理をする

特に椎間板ヘルニアを起こしやすい犬種の場合は・・・

- 激しい運動はなるべく控える
- ソファや階段の昇り降りを控える

また、抱き上げる際に前足をつかんで持ち上げたり、
降ろす際に途中で手を離して跳び降りさせるなどの
行為も危険です。抱き上げるときも降ろすときも、
お腹の下を手で支え、地面と水平に抱えることで腰への
負担を軽減できます。